

私たち静岡人にとっての「今年の省エネ」って何？



(有)アクセスユープラン
代表取締役 中溝一仁

とりあえず中電管内は他と比べて電力の供給に若干の余裕がありそうですね。昨年の震災の時もそうですが、今回もまた「何かしなければならぬ」のに「イマイチ切迫感が足りない」状況のような気がします。

一般家庭にとっても会社にとっても、「省エネ」は「省コスト」でもあります。もし、中電管内の電力需要が逼迫していたら、「省エネ」よりも「オフピーク」(電力使用のピーク時間帯における使用電力負荷の平準化)がクローズアップされるはず。そうでないのは、我々がそこまで緊迫した状況にないからではないでしょうか？

ということは私たち静岡人が「省エネ」や「エコ」を語るのには、精神的、経済的なアプローチであり、対外的なイ

メージのため？つまり、「省エネ」の結果は気にしていない!!

本タイトルにケンカを売るようなことを述べてきましたが、決して「省エネ」を否定しているわけではありません。ただ、九電管内や関電管内に比べて我々の緊張感が足りないのではないのか、ということを感じただけです。

さて、「我が社の取り組み」について最後に一言。「社員全員が集中して仕事をし、効率を上げ、早く帰る」。